

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502835		
法人名	インターナショナルホスピタルサービス株式会社 徳洲会		
事業所名	グループホーム 徳洲会 いちご館		
所在地	札幌市豊平区月寒東4条10丁目8-35		
自己評価作成日	平成22年7月20日	評価結果市町村受理日	平成22年9月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502835&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成22年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月誕生会で、昼食に出張の回転寿司・出前・スタッフが作る鍋、ケンタッキー・焼肉・誕生ケーキ等を提供している。ボランティアによる余興(お琴・フラダンス・手品・合唱等)を行っている。毎月モニタリングを行う事で本人の現状にあった支援ができるように努めている。入居さんが重度化してきているのでスタッフはきめ細やかな介護ができるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、川沿いの緑豊かな住宅地の中という環境に恵まれた立地である。利用者が隣接する同一法人の特別養護老人ホームの行事に参加したり、喫茶で軽食を取ったり、畑でできた作物をもらったりの交流を行っている。廊下、浴室、トイレ、洗面所など共有スペースが全て広々としており、車いすでも楽に使用できる。特殊浴室があり、介護度の高い利用者にも対応できるようになっている。病院を経営母体とし、看護師を週2回配置し、日常の健康管理だけでなく、24時間緊急時に対応できる医療体制が整っている。また、職員専用のトイレ、休憩室を確保し、IH式コンロや食器洗浄器などの電化製品も整っており、職員にとっても恵まれた環境となっている。「地域との交流」「その人らしい生き方の尊重」など8項目を理念として掲げ、利用者が外出を希望する時は個別に職員1人が付き添う体制を整えるなど、利用者一人ひとりの思いや希望を汲み取り、個別に対応することを大切に考えたケアの実践に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場合グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体の理念のほかにユニットで理念を作り実践している	「地域との交流」など8項目からなる事業所独自の理念の他に、ユニット別の理念も作成し、玄関や居間に掲示し共有している。管理者及び職員は、利用者一人ひとりの気持ちを汲み取り、個別のケアをすることを念頭に、日々の業務に励んでいる。	項目数が8項目と多いこと、開設当初からの理念であることから、改めて職員全員で理念について話し合い、項目数を少なく、より現状に沿って実践しやすい理念を作り上げることに期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近くの保育園に来訪したりイベントの時にボランティアで紙芝居や津軽三味線の方が来訪している	運営推進会議や消防訓練などを通し、地域住民とは、何かあった時には声をかけたり、かけてもらったりできる関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スタッフ間で日々入居者に対しどのような関わりを持つか話し合っている。地域の方に関しては町内会の会議や運営推進会議で認知症への理解についての方法を学んでもらっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度定例で開催している。ホームの運営、利用者の生活の様子、防災訓練について話しあっている。また地域の方からの意見に基づいて勉強会も行っている	運営推進会議には、利用者家族の他、町内会役員をはじめとする地域住民も参加し、活発に質問や意見が出されている。外部評価の結果についても報告している。参加者からの意見や要望には速やかに対応し、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者に業務上の報告研修等の情報を求める等協力関係を築くよう努めている	介護計画の変更の際は区の担当者に報告し、情報交換を行い、連携を保っている。また、保護課担当職員の訪問もあり、相談や助言を受けて適切な支援につなげている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠はせずに利用者の所在を目視で確認して見守っている	身体拘束ゼロへの手引きを含めた虐待防止マニュアルを作成し、研修を通して禁止の対象となる具体的な行為について理解するとともに、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・会議等で学んだり話し合っ防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見人制度が必要な方には情報提供等活用できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時説明を行ない理解を図っている。その他の場合でも疑問点など求められれば対応している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	母体病院でのアンケート調査と意見箱を設け運営に反映させている	職員は家族の来訪時には必ず声かけし、家族が気軽に意見や要望を話せる雰囲気づくりに努めている。ホーム便りには個人の記録を書くスペースを設け、細やかな近況報告を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・フロアー会議等で話し合い意見、提案を行なっている	フロアー会議で職員から出た意見や提案は、フロアーリーダーがまとめて管理者に報告し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回個人面談を行ない個々の意見を聞いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加する機会を確保している。ホーム内でも勉強会をして学ぶ機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「札幌GH合議体」が開催する研修会に参加して他事業所との交流を図っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴し安心感を得られるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	その都度話を聞きより良い関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて色々なサービス提供をしている。入居維持が困難な場合は他の情報提供も行なっている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、掃除、縫物等可能な限り分担し行なっている。経験を通じての知識、技術を学ぶいい機会になっている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡の際は積極的に交流を図りこれまでの生活歴や性格、普段の生活の様子についても話し合う場を何気ない会話の中で設けている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力も得て兄弟や近所に住んでいた方、古い友人の方等に来訪してもらったり電話連絡を取れるようにしてもらっている	利用開始前からのかかりつけの病院や行きつけの理美容院がある場合は、送迎等の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を見極めて一緒に外出できるように配慮したり会話の橋渡しをしたりしている。食事の席についても不平等や不満が無いようにスタッフ間で意見交換をし利用者に了承を得てその都度行なっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年春より退去の方はいない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り意向に沿えるように努め、外出先等の計画を立てている	意思を表現することが難しい利用者に対しては、はい、いいえで答えられるよう質問の仕方を工夫するなど、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報を得るなどして把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を把握し看護師に相談又病院受診を行っている。習字や家事手伝い等無理なく行なえるように努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が毎月家族の意向を確認しモニタリングを行ないユニット会議で検討している。それをもとにケアマネが介護計画を作成している	ユニット会議には職員全員が参加し、情報提供や意見交換をしながら介護計画を作成している。利用者の状況に変化が生じた場合は、随時計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録に介護計画内容が記載されており職員間で確認チェックを行なっている。実践、結果、気づきなどはその都度記入している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の代わりに病院受診の送迎や衣服の買い物など出来る限り本人の要望に応じられるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や避難訓練時には地域の方々にも参加してもらい情報交換ができるように努めている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の要望を尊重し入居前からのかかりつけ医を継続して受診している方もいる。受診時は職員が同行している	看護師を週2回配置し、日常の健康管理、急変時には24時間対応することが可能となっている。また、医師による月1回の往診を行うなど、医療体制が整っている。また、利用者の受診には事業所が送迎を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に受診は行なっている。週2回看護師が日常の健康管理の支援をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連携を取り早期に退院出来るように努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はその都度家族と話し合いの機会を設けるように努めている	重度化や終末期に向けた指針や同意書を書式化し、必要に応じて家族や医師、看護師と話し合いを重ねるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し目の届くところにおいて確認、対応できるようにしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練は行っている。入居者全員、地域の方に参加して頂き夜間を想定した訓練も行なっている	夜間を想定した訓練には地域住民の参加を得て、非常階段から布団を利用して避難誘導を実施し、今後に向けて意見交換を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重し言葉使いや対応の仕方(態度)等に気をつけている	職員は、利用者の尊厳を傷つけないよう言葉遣いや態度に気を付けている。個人の記録や面会簿も適切に保管し、生活用品も見えないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思や希望を確認し自己決定できるような声掛けなどに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが出来る限り本人の意思や希望に沿って支援するように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が難しい場合は声掛けや見守りを行ない理美容は訪問してもらっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを聞き盛り皿、盛り付けにも工夫をしたり誕生日等のときには特別食を計画するなど希望に添えるように努めている。準備や片づけを一緒にする等している	献立作成と食材の配達は配達業者に委託しているが、利用者の希望に応じた献立の変更、身体状況に合った食事の提供等、柔軟に対応している。時には隣接の特別養護老人ホームの喫茶で軽食を取ること、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重を測定し一人一人に適した量を考慮したり水分量をチェックシートに記入して把握できるように努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて介助を行ない清潔を保つようにしている。義歯の方には舌も磨くように声掛けをしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートを利用し本人の時間帯を把握しトイレ誘導を行なっている	尿意がなく、常時オムツを使用している利用者もいるが、時間ごとに声かけし、できるだけトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を服用しないといけない人(排便ない人)もいるがチェックシートの利用により水分量等飲食物の工夫に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や希望、時間帯等本人の希望に合わせている。入浴剤を使用したり希望時には足湯や銭湯に行っている	週2回以上を目処に本人の希望に沿った入浴を支援している。特殊浴室があり、介護度の高い利用者にも対応することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室、リビングでも安楽出来る環境作りに努めている。夜間安眠できるよう明るさ、音に配慮。寝具は使い慣れた清潔な物を使用してもらっている。温度調節等にも気をつけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のカードをスタッフがファイルにとじ把握できるようにしている。薬の外袋に名前を記入し誤薬防止に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野球観戦や手芸が好きな方、塗り絵が上手な方、習字の得意な方にはメニュー書きをしてもらう等1人1人の楽しみごとが出来るように支援している。また月1回は個別に外出している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望する時に散歩や外出出来るように努めている	散歩、買い物、外食等、利用者それぞれの希望に沿った外出を支援している。時間差で外出することにより、個別の外出でも職員1人が付き添うことが可能となっている。	利用者個別の外出については十分な支援を行っているが、利用者が揃って楽しみや喜びを共有できるよう、外出やレクリエーションの機会を設定し、職員のシフトの工夫や家族の協力を得るなど実現に向けて期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は建物内の自動販売機で飲み物を購入したり外出時に支払いをするなどしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する方は公衆電話で自由にかけている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーの下に毎月季節感を取り入れた手作りポスターを掲示したり季節に応じた飾り物を飾ったりしている(行事のある時には行事に合わせた物)	廊下、浴室、トイレ、洗面所等、共有スペースは全て広々として使いやすい。玄関やベランダにはベンチを置き、利用者が外気浴をしながらゆっくり過ごすことができる。食堂のテーブルは、組み合わせによって色々な形に変えることができる。IH式コンロや食器洗浄器等の便利な電化製品も整っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にリビングと居室を行き来し気の合った人とリビングで談話したりテレビを一緒に見たりしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の部屋には自宅で使い慣れた家具、電化製品、他を使用している	ベッドとストーブ、防災カーテンは備え付けとなっている。利用者は使い慣れた家具や好みの生活用品を持ち込み、思い出の品や写真等を飾り、その人らしい居室となっている。家具の配置も利用者の希望や身体状況に応じて工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーでトイレ、廊下、浴室等手すりを設置している。トイレは車いすで利用できる広さ。		